

1. 日本語教育部門

日本語教育部門は、本学に在籍する外国人留学生への日本語・日本事情教育を行なっている。

当部門の担当する日本語・日本事情教育の授業は、大きく次の 5 種類に分類することができる。

1. 国際教育センター開講科目
「初級集中日本語コース」「日本語・日本文化研修留学生プログラム」
2. 「全学共通教育科目」としての日本語科目
3. 「学部教育科目」としての日本語科目
4. 「大学院科目」としての日本語科目
5. 「秋季集中日本語コース」

これらの日本語の科目およびコースのうち、「秋季集中日本語コース」の授業、および「日本語・日本文化研修留学生プログラム」の一部として国際教育センターが開講する「日研生ゼミナール」では単位が認定されない（「日研生ゼミナール」は 2011 年度から国際交流科目「日本語日本文化特別ゼミナール」として単位が付与されることとなっている）が、それ以外は単位が認定される科目であり、本学の日本語教育の一つの特徴となっている。また、後掲の表に示すように、日本語担当教員が各学部や研究科と連携をとりながら、センターや学部の枠にとらわれずに授業を担当していることも特徴として挙げることができる。

全留学生約 620 名のうち、日本語教育を受けている者は各学期約 200 名程度である。交流学生・国費の大学院研究生のうち、日本語が初・中級レベルの者は国際交流科目を中心に履修している。また、日本語日本文化研修留学生は「日本語・日本文化研修留学生プログラム」にそって履修している。学部正規生、大学院研究生、大学院正規生、交流学生のうち、日本語が中・上級レベルの者は全学共通教育科目を中心に、各学期平均 2～3 科目程度を履修している。

自己評価について以下の 5 点を挙げておく。

1. 2010 年 4 月に二宮理佳講師が契約教員として着任し、国際交流科目初級日本語コースのコーディネーターの業務を担当している。
2. 社会科学の専門分野で学習・研究を続けることができるように、専門分野の日本語教育に力を入れている。2011 年度は大学改革推進経費で「社会科学の専門語彙・表現教育のための教材開発」を行っているが、これは以前刊行した「専門分野の語彙と表現（経済・商学編）」の改訂版にあたる。「専門分野の語彙と表現（経済・商学編）」は「社会科学の基礎語彙」「経済の日本語 I・II」などで活用されている。
3. 初級集中教育は大きな成果をあげている。日本語ゼロまたは、初級前半レベルで来

日してセンターで初級集中教育を受講後、全学共通教育の日本語科目等で実力をつけ、各研究科の入試に合格し、修士号や博士号を取得した学生が多い。2010年度は交流学生も初級集中教育の中心的存在として日本語力を向上させている。

4. 留学生の就職サポートにも力を入れている。2010年度は一橋大学教育プロジェクトの助成金を活用してキャリア支援室と協力し、全学共通教育科目「日本事情Ⅰ」で就職活動を視野に入れた取り組みを行った。2011年度以降も継続して取り組んでいく。
5. 授業改善に積極的に取り組んでいる。大学の様式を使用しての授業評価のほかに、20名以下のクラスではセンター独自の評価シートを用いて、留学生センター発足当時から毎学期授業評価を行っている。また、言語社会研究科の日本語教育学位取得プログラムの大学院生の授業見学を受け入れており、見学レポートを授業改善に役立てている。

1. 国際教育センター開講授業

1-1 初級集中日本語コース

〈コースの概要〉

2009年度まで週16コマの日本語初級集中授業を行ってきた。対象者は主に大学院研究生であるが、交流学生で日本語初級の学生には本人の希望と指導教員の許可があれば受け入れてきた。大学院研究生は大学院の入学試験合格が最終目標であるため、半年間のセンター学生期間中は日本語に専念していたが、2010年度からは国際交流科目の履修との両立も考慮して、週5コマのクラスを設置した。しかし、2010年度夏学期には初級前半レベルの大学院研究生が4名おり、受験のために10コマを確保する必要があったため、**Japanese 2**、**Japanese 3**を合同クラスとした。

このコースの日本語学習の目標は、学内外の日常生活に必要な日本語運用能力を獲得すること、および、各参加者の専門の勉学・研究活動に必要な日本語力の基礎を構築することである。

コースは、各年度2回開講される。

夏学期：4月上旬開講、9月中旬修了

(9月に3週間の「集中日本語コース」を実施)

冬学期：10月上旬開講、3月中旬修了

〈各学期報告〉

第26期(2010年夏学期：2010年4月～9月)

13か国から16名の留学生が受講した。**Japanese 1 (J1)** および、**Japanese 2 (J2)** と **Japanese (J3)** の合併クラスの2クラスを編成し、それぞれ8名ずつ配置した。日本語

1. 日本語教育部門

教育担当教員は専任教員 2 名、非常勤講師 3 名（志村ゆかり、田中久美子、福岡理恵子）である（コーディネーター：西谷、二宮）。

Japanese 1 の主な教材：『げんき I』『げんき II』（ジャパントイムズ）とそのワークブック、『毎日の聞きとり 50 日 初級編』（凡人社）、『わくわく文法リスニング 99』（凡人社）、『みんなの日本語初級 I 聴解タスク 25』『みんなの日本語初級 II 聴解タスク 25』（スリーエーネットワーク）、『楽しく読もう I』（凡人社）、そのほか各種自作教材を使用した。

Japanese 2 と Japanese 3 の合併クラスの主な教材：『げんき II』（ジャパントイムズ）とそのワークブック、『毎日の聞きとり 50 日 初級編』（凡人社）、『みんなの日本語初級 II 聴解タスク 25』（スリーエーネットワーク）、『楽しく読もう I』（凡人社）、『Intermediate Japanese』（ジャパントイムズ）、そのほか各種自作教材を使用した。

第 26 期生名簿

氏名	性別	国籍	クラス	所属学部・研究科
Dacharux, Krist	M	タイ	J1	経済学研究科
Pan, Peilin*	F	オランダ	J1	商学部
Barham, Adina	F	ルーマニア	J1	社会学研究科
Reyes, Kathleen Joy De Guzman	F	フィリピン	J1	社会学研究科
Szczerbowicz, Urszula*	F	ポーランド	J1	経済学研究科
Dehkordi, Shabnam	F	イラン	J1	商学研究科
Totomanov, Alexander Emilov	M	ブルガリア	J1	商学研究科
Nguyen, Hoa Chung	M	ベトナム	J1	経済学研究科
Chuasuwana, Chotiga	F	タイ	J2/J3	経済学研究科
Kumutpongpanich, Suphatana	F	タイ	J2/J3	経済学研究科
Kakihara, Jiro Gonzales	M	フィリピン	J2/J3	社会学研究科
Alabbasi, Amina	F	バーレーン	J2/J3	経済学研究科
Fried, Alexander*	M	ドイツ	J2/J3	経済学部
Casar, Deigo*	M	メキシコ	J2/J3	経済学研究科
Merlin, Anne Cecile*	F	フランス	J2/J3	法学部
Arnaud, Erik*	M	フランス	J2/J3	法学部

*交流学生

第26期時間割

		I	II	III	IV
月	J1	----	----	田中	田中
	J2/J3	----	----	二宮	二宮
火	J1	福岡	福岡	----	----
	J2/J3	西谷	西谷	----	----
水	J1	二宮	二宮	----	----
	J2/J3	西谷	西谷	----	----
木	J1	福岡	福岡	----	----
	J2/J3	二宮	二宮	----	----
金	J1	田中	田中	----	----
	J2/J3	志村	志村	----	----

第27期 (2010年冬学期 : 2010年10月~2011年3月)

14か国から22名の留学生が受講した。Japanese 1 (J1)、Japanese 2 (J2)、Japanese 3 (J3)、Japanese 4 (J4) の4クラスを編成し、Japanese 1に3名、Japanese 2に4名、Japanese 3に4名、Japanese 4に11名配置した。日本語教育担当教員は専任教員5名、非常勤講師3名(志村ゆかり、田中久美子、福岡理恵子)である(コーディネーター: 二宮、石黒)。

Japanese 1の主な教材: 『げんき I』 『げんき II』 (ジャパンタイムズ) とそのワークブック、 『毎日の聞きとり 50日 初級編』 (凡人社)、 『わくわく文法リスニング 99』 (凡人社)、 『みんなの日本語初級 I 聴解タスク 25』 『みんなの日本語初級 II 聴解タスク 25』 (スリーエーネットワーク)、 『楽しく読もう I』 (凡人社)、 そのほか各種自作教材を使用した。

Japanese 2の主な教材: 『げんき I』 (ジャパンタイムズ) とそのワークブック、 『毎日の聞きとり 50日 初級編』 (凡人社)、 『わくわく文法リスニング 99』 (凡人社)、 『みんなの日本語初級 I 聴解タスク 25』 『みんなの日本語初級 II 聴解タスク 25』 (スリーエーネットワーク)、 そのほか各種自作教材を使用した。

Japanese 3の主な教材: 『げんき II』 (ジャパンタイムズ) とそのワークブック、 『毎日の聞きとり 50日 初級編』 (凡人社)、 『みんなの日本語初級 II 聴解タスク 25』 (スリーエーネットワーク)、 『楽しく聞こう II』 (文化外国語専門学校)、 『楽しく読もう II』 (文化外国語専門学校)、 そのほか各種自作教材を使用した。

Japanese 4の主な教材: 『Intermediate Japanese』 (ジャパンタイムズ) とそのワークブック、 『上級へのとびら』 (くろしお出版)、 そのほか各種自作教材を使用した。

1. 日本語教育部門

第 27 期生名簿

氏 名	性別	国 籍	クラス	所属学部・研究科
Rittner, Stefan*	M	ドイツ	J1	商学部
Valenta, Moritz Peter*	M	ドイツ	J1	商学部
Boedjawan, Rishianand Krishna*	M	オランダ	J1	経済学部
Van, Chankanha**	F	カンボジア	J2	経済学研究科
Mancini, Simone*	M	イタリア	J2	国際・公共政策大学院
Antoine, Arnaud*	M	フランス	J2	経済学部
In, Chan Borey	F	カンボジア	J2	国際・公共政策大学院
Peltier, Clara Sophie Antoinette*	F	フランス	J3	法学部
Kravtsova, Viktoriya***	F	ウクライナ	J3	経済学研究科
Nguyen, Hoa Chung	M	ベトナム	J3	経済学研究科
Schwarting, Yan Niklas*	M	ドイツ	J3	商学部
Muresan, Cristina Ioana*	F	ルーマニア	J4	商学部
Kone, Katchenin de Tarago*	F	ドイツ	J4	法学部
Silk, Leena*	F	エストニア	J4	法学部
Coates, Alastair Robert*	M	イギリス	J4	社会学部
Lohnert, Elena*	F	ドイツ	J4	社会学部
Totomanov, Alexander Emilov	M	ブルガリア	J4	商学研究科
Reyes, Kathleen Joy De Guzman	F	フィリピン	J4	社会学研究科
Maneenop, Sakkakom	M	タイ	J4	経済学研究科
Chuasuwana, Chotiga	F	タイ	J4	経済学研究科
Kumutpongpanich, Suphatana	F	タイ	J4	経済学研究科
Chiew, Si Yieng*	F	ブルネイ	J4	社会学部

*交流学生 **大学推薦 ***研究員

第27期時間割

		I	II	III	IV
月	J1	----	----	田中	田中
	J2	----	----	鶴田	----
	J3	----	----	----	鶴田
	J4	----	----	二宮	----
火	J1	福岡	福岡	----	----
	J2	二宮	----	----	----
	J3	----	二宮	----	----
	J4	石黒	----	----	----
水	J1	二宮	二宮	----	----
	J2	五味	----	----	----
	J3	----	五味	----	----
	J4	石黒	----	----	----
木	J1	福岡	福岡	----	----
	J2	二宮	----	----	----
	J3	----	二宮	----	----
	J4	庵	----	----	----
金	J1	田中	田中	----	----
	J2	志村	----	----	----
	J3	----	志村	----	----
	J4	庵	----	----	----

1-2 日本語・日本文化研修留学生プログラム

〈コースの概要〉

文部科学省国費学部留学生のうちで日本語・日本文化を中心に学び、日本語力が上級レベルに達している者を対象としている。研修生は、従来どおり学部ゼミナールに所属し、各自の希望にあわせて日本語科目、全学共通教育科目、学部教育科目を履修する。また、2006年度10月来日学生からは大使館推薦の学生とともに、大学推薦の学生も日研生ゼミナールに参加し、修了レポートの作成を行うことになった。2005年度より如水会事務局のサポートを得て、企業に於けるインターンシップも行っている(コーディネーター 西谷)。

2009年度日本語・日本文化研修留学生プログラム (2009年10月1日～2010年9月30日)

8名の研修留学生が以下のタイトルの修了レポートを作成し、内容についてプレゼンテーションを行った(2010年7月28日)。国際教育センター専任教員(西谷)及び配置学部の指導教員が修了レポートの指導にあたった。

1. 日本語教育部門

2009 年度日本語・日本文化研修留学生名簿及び修了レポートタイトル

氏名	性別	国籍	修了レポートタイトル
Kim, Seongmin	M	韓国	アイヌ民族同化政策から現在まで —アイヌ民族の現在・貧困の再生産問題を中心に—
Shin, Seungyong	M	韓国	日本における「実在しない児童」規制
Son, Youngeun	F	韓国	日・韓呼称の対照 —ドラマ「花より男子」日本版・韓国版を中心に—
You, Leeanna	F	韓国	韓国のお土産産業の問題点 —日本のお土産産業との比較からみる—
Deng, Chuhong (鄧 楚泓)	M	中国	廃棄物をめぐる中日間の国際資源循環への考察
Park, Jina*	F	韓国	清溪川から見た韓国の都市アメニティ
Merida, Tarik*	M	ドイツ	日本史における黒人の存在 —人間的なアプローチ—
Huang, Lei Lei*	F	中国	日本における就職活動の問題点

* 大学推薦

2009 年度日本語・日本文化研修留学生インターンシップ報告

氏名	国籍	インターン先	時期
Deng, Chuhong (鄧楚泓)	中国	江戸屋	8月11日～8月15日
Merida, Tarik	ドイツ	キッコーマン	8月23日～8月27日
Shin, Seungyong	韓国	みずほコーポレート銀行	8月11日～8月31日

2010 年度日本語・日本文化研修留学生プログラム (2010 年 10 月 1 日～2011 年 9 月 30 日)

8名の大使館推薦、2名の大学推薦の学生が、修了レポート作成の準備として、まず、2009年度に作成した研修生のレポートを読んだ。その後、2010年1月末までに修了レポートの大まかなテーマを決定するにあたり、国際教育センターの専任教員（西谷）が指導を担当した。

2010 年度日本語・日本文化研修留学生名簿及び指導教員

氏名	性別	国籍	所属学部	指導教員
KIM, Hyeen (金 恵恩)	F	韓国	経済学部	今村 和宏
JANG, Soyeo (張 昭如)	F	韓国	経済学部	今村 和宏
KIM, Jeong Won (金 貞媛)	F	韓国	社会学部	木村 元
SHIN, Hyeran (申 惠爛)	F	韓国	法学部	柏崎 順子
NAM, Hyewon (南 慧元)	F	韓国	経済学部	今村 和宏
OH, Hyejung (呉 恵瀧)	F	韓国	社会学部	糟谷 憲一
KIM, Jin (金 真)	F	韓国	社会学部	稲葉 哲郎
TIAN, Baojin (田 宝瑾)	F	中国	経済学部	今村 和宏
XIE, Chen (謝 宸) *	M	中国	社会学部	坂上 康博
HUANG, Amy *	F	アメリカ	経済学部	黒住 英司

* 大学推薦

2. 全学共通教育科目としての日本語科目

全学共通教育科目として開講される日本語関係科目にはさまざまなものがある。2010年度は、年間のべ科目数で28、ゼメスター単位の延べコマ数で45コマ（1コマ=90分授業が週に1回で、2単位に相当）になる。以下に各科目の担当者、コマ数、対象（特に明記しない限り留学生を対象とする）、内容、総時間数などを表にして記す。

2-1 学部留学生対象の日本語・日本事情科目

「日本語 A」と「日本語 B」は、学部1年の留学生を対象にした科目で、「一般日本事情 I」及び「一般日本事情 II」は、主に学部1・2年生の留学生を対象としている。この4科目が狭義の「日本語・日本事情科目」と呼ばれるものである。

表1：日本語・日本事情科目

科目 (担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語 A (三枝、庵)	2コマ /週	学部1年生	社会科学の勉強に必要な日本語能力を総合的に養成する。特に教科書等を正確に読みこなし、講義を聞いて理解する訓練をする。	夏学期に開講 60時間
日本語 B (五味、今村)	2コマ /週	上に同じ	「日本語 A」に続いて高度な日本語能力を養成する。	冬学期に開講 60時間
一般日本事情 I (冬：西谷)	1コマ /週	学部生全般 主に1、2年生	就職支援を目的に、企業の人事担当者の話を聞いたり、面接の準備として論理的な話し方のトレーニングなどを行う。	冬学期に開講 30時間
一般日本事情 II (夏：河野)	1コマ /週	学部生全般 主に1、2年生	日本文化を再考する。伝統文化については、構築主義的観点から見直し、日本から海外に渡った日本文化が外国でどのように受容され、または変容しているのかを考察する。	夏学期に開講 30時間

2-2 全留学生対象の日本語科目

次の表2、表3に掲げる科目は、単位取得が可能な正規科目として、交流学生（交流協定校からの1年の短期留学生）、研究生（初級集中日本語コース修了生を含む）、日本語日本文化研修留学生（略称「日研生」）、学部1・2年生、大学院正規生など、全てのカテゴリーの留学生がそれぞれのレベルとニーズにあわせて選択、履修している。

クラス編成はプレースメント・テストの結果、学習者それぞれのニーズ等によって決められる。2010年度の非常勤講師は、新城直樹、安部達雄、金井勇人、鈴木容子であった。

1. 日本語教育部門

表2：選択科目

科目(担当者)	コマ数	対 象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語選択・ 文章表現入門 (夏：鶴田、冬：三枝)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級前半)	初級文型を復習しながら、文章表現の基礎を学ぶ。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・文章表現Ⅰ (夏：鶴田、冬：三枝)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級後半)	社会科学系の論文を書く際に必要な基本的文型や表現・語彙を習得し、論理的な文章をふさわしい文体で書けるようにする。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・文章表現Ⅱ (夏冬：金井)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(上級前半)	あるテーマについて掘り下げながら、正しい文法と適切な表現を使って、読む人を納得させられる文章を書く能力を身につける。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・文章表現Ⅲ (夏冬：安部)	1コマ /週	主に学部前半期学生、 日研究生、交流学生、研 究生(上級後半)	文体、文章構成などについて、ともに議論することを通して、論文を書くのに必要な文章表現技術を身につける。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・漢字CAI (夏：新城、冬：今村)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級)	主に中級レベルの漢字力をつける。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・文法Ⅰ (夏：鈴木)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級)	初級文法の総まとめをする。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・文法Ⅱ (夏：庵、冬：三枝)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(上級)	中・上級レベルの文法力を確実なものにする。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・ 口頭表現入門 (夏：鶴田、冬：三枝)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級前半)	初級文型を使って口頭運用の基礎を養成する。	夏学期と 冬学期に開講 30時間
日本語選択・口頭表現Ⅰ (夏：鶴田、冬：三枝)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級後半)	大学生活で自然な日本語が使えるようにする。中級中期レベルの運用能力をつける。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・口頭表現Ⅱ (夏冬：安部)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(上級前半)	大学生活で自然な日本語が使えるようにする。中級後期レベルの運用能力をつける。待遇表現等を学ぶ。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・口頭表現Ⅲ (夏冬：新城)	1コマ /週	主に学部前半期学生、 日研究生、交流学生、研 究生(上級後半)	大学生活に必要なプレゼンテーション・スキル等、高度なコミュニケーション・スキルを養成する。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・翻訳 (夏冬：鶴田)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(上級)、 学部前半期生	主に社会科学系の英語文献を日本語に翻訳することを通して日本語力を向上させる。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・中級読解Ⅰ (夏：鈴木、冬：金井)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級前半)	初級文型を復習しながら、少し長い文章を読む。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・中級読解Ⅱ (夏：三枝、冬：鶴田)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級後半)	新聞、新書などの長い文にふれる。語彙・文型を増やす。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・上級読解Ⅰ (夏：庵、冬：鶴田)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(上級前半)	読解のストラテジーを確認しながら、内容を読みとる力をつける。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・上級読解Ⅱ (夏：三枝)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(上級後半)	読解のストラテジーを確認しながら、内容を読みとる力をつける。	夏学期に開講 30時間

科目(担当者)	コマ数	対 象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語選択・速読 (夏：今村、冬：新城)	1コマ /週	主に学部前半期学生、 日研生、交流学生、研 究生(上級後半)	社会・人文科学分野の新聞・雑誌・ 書籍をテキストに、生の日本語か ら必要な情報を速く読み取る能力 をつける。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・ 社会科学の基礎語彙 (夏：今村、冬：石黒)	1コマ /週	主に交流学生、 研究生(中級)	社会科学の各分野の勉学・研究に 必要な基礎語彙をテキストやプリ ントを用いて学ぶ。	夏学期と 冬学期に開講 各30時間
日本語選択・ 近代文語文講読 (夏：庵)	1コマ /週	主に学部学生、日研 生、交流学生、研究生、 大学院生(上級後半)	明治、大正期の文語文を読み、そ の時代の資料特有の文法や表現を 学ぶ。	夏学期に開講 30時間

2-3 学部生対象の日本語関係科目

「現代日本語論Ⅰ」「現代日本語論Ⅱ」は、留学生を含む、学部生一般を対象とした全学
共通教育科目、「教養ゼミ」は、留学生を含む学部1、2年生を対象とした科目、「共通ゼ
ミ」は、主に留学生を含む学部3、4年生を対象とした科目である。

表3：学部生対象の日本語関係科目

科目(担当者)	コマ数	対 象	授業内容・到達目標	時期・時間数
現代日本語論Ⅱ (冬：石黒)	1コマ /週	留学生を含む学 部1~4年生	文章構成、文体、修辞技法などを意識化、 対象化して学ぶことによって、文章技術の 向上を目指す。	冬学期に開講 30時間
共通ゼミ (庵)	1コマ /週	学部3、4年生	日本語学の方法論を身につける。	通年開講 60時間
共通ゼミ (三枝)	1コマ /週	学部3、4年生 交流学生	日本語・日本文化に関する文献を講読する。	通年開講 60時間
共通ゼミ (今村)	1コマ /週	学部3年生 日研生	各自の専門分野における日本語の資料を比 較検討する。および、レポート作成の指導 をする。	通年開講 60時間
共通ゼミ (今村)	1コマ /週	学部4年生	日本語文法および日本語教育の文献を読 み、討議する。	通年開講 60時間

3. 学部教育科目としての日本語科目(留学生対象)

学部教育の枠組みでは、経済学部において「経済の日本語Ⅰ・Ⅱ」(夏学期、冬学期に各々
週1コマ)、法学部において「法の日本語」(夏学期、週1コマ)、社会学部において「社会・
人文の日本語Ⅰ・Ⅱ」(夏学期、冬学期に各々週1コマ、ただし、2010年度はⅡを休講)がそれぞ
れ開講されている。いずれも各学部における留学生の専門日本語能力の向上を図るために
開設されているが、他学部の学部生、研究生、交流学生、日研生も履修することができる。

1. 日本語教育部門

表 4：学部教育科目

科目（担当者）	コマ数	対 象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済の日本語Ⅰ （夏冬：西谷）	2 コマ ／週	主に経済学部の 交流学生、研究生 （上級前半）	経済学を中心とする社会科学の分野で使われる語彙・表現をテキストを用いて学習するほか、日本経済新聞などの記事を講読し、テレビニュースを視聴する。	夏学期と 冬学期に開講 各 30 時間
経済の日本語Ⅱ （夏冬：今村）	1 コマ ／週	主に経済学部の 学部生、交流学生、 研究生（上級後半）	日本経済新聞などの記事や経済学・商学の専門文献の抜粋をテキストとして使用し、主に経済学の分野で用いられる語彙・表現を細かなニュアンスまで掘り下げて学習するとともに、筆者の視点や価値判断を読み取る。	夏学期と 冬学期に開講 各 30 時間
法の日本語 （夏：三枝）	1 コマ ／週	主に法学部の 学部生、交流学生、 研究生（上級後半）	『判例で学ぶ日本の法律』（一橋大学国際教育センター）をテキストに、法律や法律学に関する文章を読みこなす力をつける訓練をする。	夏学期に開講 30 時間
社会・人文の日本語Ⅰ （夏：河野）	1 コマ ／週	学部の 2 年生、 交流学生、日研生、 研究生	社会学の専門知識について理解する力をつける。	夏学期に開講 30 時間

4. 大学院科目

4-1 留学生のための大学院科目

大学院科目においては、2010 年度、経済学研究科で「経済専門文献日本語」、言語社会研究科で「専門日本語表現技法Ⅰ」、国際・公共政策大学院で「日本研究Ⅰ」が開講された。科目によっては、留学生に限定せず、日本語を母語とする学生にも開講されている。

表 5：大学院科目

科目（担当者）	コマ数	対 象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済専門文献日本語 （夏冬：今村）	1 コマ ／週	主に経済学研究科 の修士、博士課程 の学生、及び学部 4 年生	経済専門文献の理解における落とし穴に目を向け、言語表現に現れる筆者の視点や立場を読みとる。同時に論文執筆、発表の技術も指導する。	夏学期と 冬学期に開講 各 30 時間
専門日本語表現技法Ⅰ （夏：鶴田）	1 コマ ／週	主に言語社会研究 科の学生	学術的文章の特徴に習熟するための訓練を行う。	夏学期に開講 30 時間
日本研究Ⅰ・法言語文化 論特殊研究 （冬：三枝）	1 コマ ／週	主に国際・公共政 策大学院及び法学 研究科の修士課程 の学生	いくつかの判決文を素材に、日本の環境問題、宗教、差別等について考える。	冬学期に開講 30 時間

5. 秋季集中日本語コース（補講としての日本語）

正規のカリキュラム外に開講されるもので、単位は付与されない。2010年度は9月に3週間の集中日本語コースが開かれた。象者は一橋大学に在籍する全留学生で、受講者は32名である。担当教員は謝金による講師6名（阿保さみ枝、新城直樹、今井なをみ、鈴木容子、高井曜子、村上まさみ）であった。クラス編成、授業担当教員、内容、使用教材を以下に記す（コーディネーター：西谷）。

表6：2010年度秋季集中日本語コース（2010年9月1日～17日、全65時間）

コーディネーター：西谷

クラス（担当者）	内容	使用教材
Aクラス （今井、村上）	初級文法・漢字・語彙を確認しながら聴解力の向上を目指し、中級文法へと橋渡しする。（言語社会研究科第二部門の教育実習生が授業を担当し、担当教員は事前事後指導に当たった。）	『Intermediate Japanese』 The Japan Times 1課～6課
Bクラス （鈴木、高井）	中級文法・漢字・語彙を確認しながら総合的運用力の向上を目指し、上級への橋渡しをする。	『Intermediate Japanese』 The Japan Times 11課～15課
Cクラス （阿保、新城）	高度な内容の時事問題について読解、討論および文章作成を行う。	『中級を学ぼう中級中期』 スリーエーネットワーク 全10課中、7課まで終了

（文責：庵功雄、石黒圭、今村和宏、五味政信、三枝令子、鶴田庸子、西谷まり、二宮理佳）